

●九州大学医師等も参加する中、第8回遠隔放射線診断プロジェクト会議（於：サンタクルス病院）で複雑症例を紹介。

3月6日、第8回遠隔放射線診断プロジェクト会議が、サンタクルス病院、サンパウロ大学病院およびベレン大学病院との連携により、サンタクルス病院講堂で開催されました。

毎月開催される本会議は、JICA 及びリアルタイム接続用の画像診断ソリューション「Synapse PACS」の技術を提供する富士フィルムによって支援されています。本会議では、上記3医療機関の医師等がオンラインカンファレンスを通じ、難易度の高い胸部及び腹部の診断6例を発表しました。

また同会議には、TEMDEC - 九州大学アジア遠隔医療開発センター、日系医療機関医師、JICA 及び富士フィルムから教授、医師や専門家等が参加しました。遠隔放射線診断プロジェクトの責任者であるサンタクルス病院の技術部長で心臓専門医の山野ジュリオ医師は、「本プロジェクト及び現行の技術進歩のメリットを TEMDEC の皆さんと日系医療機関に発表するための重要な機会であった」と語りました。

TEMDEC 関係者は、サンタクルス病院の医療診療における最先端技術の使用の拡大への連携を確認し、遠隔医療技術関連施設との取組みに着手しました。

「九州大学と TEMDEC は、著名なブラジルの病院間の遠隔放射線診断の生中継に参加できることを大変嬉しく思います。今後 TEMDEC も情報共有を行うことでブラジルの医療関連の技術革新の発展に寄与することができればと考えています」と TEMDEC センター長であり、九州大学病院国際医学部長の清水周次教授は述べました。

(了)